

会 議 録

会議の名称	令和6年度結城市総合教育会議
開催日時	令和7年2月13日 午後4時00分
開催場所	結城市役所4階大会議室1
出席者	構成員 結城市長 小林 栄、教育長 黒田光浩、教育長職務代理者 田中 昌希、教育委員 中村義明、教育委員 赤木信之 構成員以外の出席者 総務部長、教育部長、総務課長、学校教育課長、参事兼指導課長、生涯学習課長、スポーツ振興課長、学校教育課長補佐兼小学校新設推進係長、学校教育課学務係長、総務課主任、総務課主幹 説明者 指導課指導係長、指導課会計年度任用職員（ICT教育コーディネーター）
議 題	（1）結城市の教育の現状について （2）意見交換：結城市の今後の教育について
公開・非公開の別	公 開
傍聴人の数	0人
審 議 内 容	別紙のとおり
問 合 せ 先 （事務局）	総務部総務課総務係 T E L 0 2 9 6 - 3 4 - 0 4 0 2 F A X 0 2 9 6 - 5 4 - 7 0 0 9 e - m a i l soumu@city.yuki.lg.jp
そ の 他	

令和 6 年度結城市総合教育会議

○日 時 令和 7 年 2 月 1 3 日（木） 午後 4 時 0 0 分から

○場 所 結城市役所大会議室 1

○出 席 者

（会議の構成員）

小林 栄 市長

黒田光浩 教育長

田中昌希 教育長職務代理人

中村義明 教育委員

赤木信之 教育委員

（構成員以外の出席者）

総務部長、教育部長、総務課長、学校教育課長、参事兼指導課長、生涯学習課長、
スポーツ振興課長、学校教育課長補佐兼小学校新設推進係長、学校教育課学務係長、
総務課主任、総務課主幹

（説明者）

指導課指導係長、指導課会計年度任用職員（ICT教育コーディネーター）

○欠 席 者

岩崎 勤 教育委員

○議 事（協議・調整事項）

（１）結城市の教育の現状について

（２）意見交換：結城市の今後の教育について

1 開 会（司会：総務課主任）

- ・ただ今から「令和6年度結城市総合教育会議」を開会いたします。

2 市長挨拶（小林 栄市長（以下「市長」）

【挨拶 省略】

3 教育長挨拶（黒田光浩教育長（以下「教育長」）

【挨拶 省略】

○出席者紹介

【教育委員及び出席職員の紹介 省略】

4 議 事（議長：市長）

（1）結城市の教育の現状について

（以下、事務局より説明）

【ICT教育「テキスト型プログラミング学習」について】

（指導課会計年度任用職員：ICT教育コーディネーター）

- プログラミング教育として、結城市ではテキスト言語を用いる「テキスト型プログラミング学習」を扱っている。
- 今回の大学入試共通テストは、新たに「情報」という教科ができて初めての試験であり、100点満点中25点分はプログラミングから出題されている。
- 国の政策として、大学では文理を問わず、理数、データサイエンス、AIを履修可能にするという政策をとっており、情報リテラシーの最低限の知識を50万人に、応用的な知識を25万人に、エキスパートレベルを2千人に、という大学での目標を掲げている。
- 高校では「情報」は普通教科として、中学校では技術家庭科の技術分野で「テキスト型プログラミング」を扱っている。
- 小学校では、令和2年度から英語と同時に必修となり、プログラミングの技能ではなく思考力を身に着けることが目的であることから、逆に取り組み難い現状がある。指導者がおらず、小学校でテキスト言語を導入している学校はほとんどなく、ビジュアル型言語によるプログラミングを行うことが多い。結城市では、中学校から「テキスト型プログラミング」が始まることを考慮し、小学校から学ぶべきではないかということで、英語に近い「ベーシック言語」を用い、小学校～大学へシームレスなプログラミング教育を提供し、プログラミングへの関心を高めるよう取り組んでいる。
- 取組として、結城市独自の児童用教科書を作成した。また、全教員への研修を実施し、指導者の育成に取り組んでいる。6年生に対しては、ICT教育コーディネーターが各学校をまわり、直接指導している。新設小学校内に設立予定のメディアセンターでも、情報分野で活躍できる子どもの教育を予定している。
- 絹川小学校の6年生は、プログラミング大会において、テキスト型プログラミン

グ言語分野で史上初の小学生での優秀賞を獲得した。また、山川小学校でのプログラミング教育の取組がケーブルテレビで取り上げられた。

- 結城市のプログラミング教育を確立させ、将来の情報化社会で活躍できる子どもたちを育てていくという目標に取り組んでいく。

【英語教育について】（指導課指導係長）

- 令和6年度は小学校5年生以上の英語の授業にALTを配置していたが、令和7年度より、1名増員し、小学校3年生から配置できるよう調整している。授業を充実させるとともに、小学校滞在時間の増加により、授業以外でもALTと会話できる機会を設けることができる。
- 学んだ英語を楽しく活用する場の提供として、授業中に海外の学校とオンラインでつなぎ、児童生徒の交流の機会を設けている。今年度は夏と冬にイングリッシュキャンプという英語のイベントを実施し、多くの児童が参加した。ボランティアで中学生も参加してくれた。現在考案中のものとして、各校でイングリッシュディを設けているが、外部の英語のイベントを校内に持ち込み、市内の1校にALTを集め、本格的なイングリッシュディを行うことを検討している。
- 自主的な英語学習ができるよう、オンラインでのALTとの発音練習や英検2次面接対策等、オンラインを活用した自主学習を行っている。
- 小学校1年から中学校3年までに身につけさせたい英語の表現を、スタンプラリー形式で記載した英語パスポートの作成を行っている。名称を市内小中学生から募集し、多数応募をいただいた。
- TGG（東京グローバルゲートウェイ）という体験型英語学習施設の利用を検討している。

【ふるさと教育について】（参事兼指導課長）

- 9か年（小学校1年～中学校3年）を通したふるさと教育により、ふるさとを愛する心を育てる目的で進めていく。
- 結城紬の学習を中心に、特色あるふるさと教育を進めていく。例えば結城南中学校区の各小学校では、絹川小学校では結城紬や鬼怒川について、江川北小学校では健康の森での学習、江川南小学校では白菜等野菜栽培や流通について、山川小学校は水野忠邦や山川不動尊、上山川小学校では結城廃寺や太々神楽について等特色を生かした学習を行っていく。結城中学校区や結城東中学校区も同様に、各地区の特色を生かした学習を、各学年に応じた内容で、体験学習を取り入れながら進めていく。
- プログラミング教育、英語教育、ふるさと教育を進めるに当たり、MDP（ミニミドリムプロジェクト会議）を立ち上げた。
- 子どもたちが行きたいと思う学校、保護者が行かせたいと思う学校、教職員が勤めたいと思えるような学校を目指して、夢を持って進めていく。
- プログラミング教育、英語教育、ふるさと教育を総称して、「ゆうき未来科」として進めていきたい。プログラミング教育では新たな価値を創り出す力、英語教育ではグローバル社会に対応する力、ふるさと教育では地域とつながる力を育てていくため、体験学習等年間計画に位置付け進めていく。

- 令和7年度には、田村哲夫氏（学校法人渋谷教育学園理事長）による市内全教職員を対象とした講演会を実施予定。自主性を引き出す、自調自考教育の理念を持ち、精力的に教育に取り組んでいる内容について講演してもらう。
- 未来の子どもたちのため、学校づくりを進めていきたい。

（２）意見交換：結城市の今後の教育について

●中村義明教育委員（以下「中村委員」）

- このような提案を積極的にいただいて大変うれしく思う。
- 30年ほど前の話になるが、昔のコンピューター教育として、ある学校にアナライザーという分析・解析装置が導入されたことがある。導入自体も遅かったが、導入だけされ全く使用されず、使用できる人もいない、という状況で、当時とても残念に思った。物だけ、形だけの整備をしても、使用できる環境が整っていないければ何の意味もない、トータルなものの考え方をしていかなないと今後ますます乗り遅れてしまうと感じている。
- プログラミング教育、英語教育、ふるさと教育について話を聞いて、結城市の未来は明るいのではないか、という思いがした。

●赤木信之教育委員（以下「赤木委員」）

- 未来ある取組だなと思って聞かせていただいた。
- 冒頭に教育長の話にもあった「結城市が好きになる子を育てる」というのが、とてもいい考え方であると思う。今の子どもたちは、結城市にわくわくする、ということがあるのかな、と思っている。
- 予定されている結城南中学校区の再編を活かして、学区や学校を超えた進路指導を充実させるというのはどうだろうかと考えている。市内の同学年の児童生徒に対し、市役所で市の総合計画の説明会を行ったり、職業体験や工業団地企業と連携した工場見学をしたりする等、今後について考えられるような機会を設けることで、結城市が良いところだと感じるようになるのではないかな。

●田中昌希教育長職務代理者（以下「田中委員」）

- 子どもがいる親として、先ほどの話を聞いて、子どもたちのために本当によく考えて一生懸命取り組んでいただいて、子どもたちも楽しんで学校に行っているなと感じる。専門の先生に教えてもらえる、というのがとても良いことで、例えば音楽の授業も専門の先生に教えてもらっていて子どもがとても楽しんでいる様子なので、結城南中学校区の再編で中学校の先生に教えてもらえるような機会ができることは保護者としても魅力的なことに感じる。
- 学校が地域に支えられていると感じることが多く、子どもたちにも地域に恩返しができるような子に育ててほしいと思っているため、ふるさと教育はとても大切なことだと思う。
- ホームステイとして外国の児童養護施設の子どもの自宅に招き数日間滞在してもらったが、言葉が通じない中、分かり合えたり楽しいことを共有できたときには喜んだりして、実際に国籍を超えて人と触れ合う時間はとても刺激になった。教育の目的は、お互いに考えが違う中で、そういう時にどのように折り合いをつけ

ていくか、ということがあると思うので、子どもたちにもそのように育ってほしい。

●市長

- 結城市の教育方針は間違っていないと思う。根本にあるのは、結城市で育った子どもには結城市に大好きでいてほしい、世界に羽ばたいてほしいとはもちろん思っているが、結城市を軸として、大人になって活躍してほしいと思う。
- 少子化で少なくなってきた子どもたちを、取り残さず個性や成長に合わせながらどう寄り添いながら教育ができるか、先ほどの3つの教育の柱を中心にしながら実現に向かってほしい。先生たちが希望を持って子どもたちを教育することで、その姿を子どもたちが見ることで楽しめる学校になっていくといいと思う。
- 子どもはどこにどんな才能があるか分からないので、探しながら育てながら見守っていく、というのが教育の醍醐味であると思うので頑張してほしい。

●教育長

- 結城市の先生は頑張っていると思う。例えば英語教育で、一部の生徒だけが海外研修に行って学ばいいというわけではなく、オンラインで留学のような学習をするのがいいし、プログラミング教育でも現在目に見える形で成果が出ていなくても、将来大学受験で結城市の子どもたちが情報でいい点をとっている、ということが成果になる。ふるさと学習でも、その学校の特色というのを覚えて育ってほしいと思う。小林市長からも提案をいただき、それが具現化した結果であると思う。
- 野菜を育て流通を学ぶことや、学校でお米を作り販売する等お金を稼ぐということがどういうことかを知ってもらったり、結城紬の機織りをして何か作成してもらったり等、わくわくするような学校をつくるのが将来の結城市につながっている。
- 少人数学級と、小規模特認校では全く意味合いが違う。小規模だから手厚い指導ができる、学校がなくなるから地域が廃れるといったような根拠のない話を否定したい。
- 健康と教育は重なり合うところがあると思う。健康であって、そして結城市独自の教育を進めていきたい。

●中村委員

- 目標を掲げて、それが頓挫することがないようにしていただきたい。旗揚げだけならいくらでもできるので、それをどう勝ち取るか具体的に進めなくてはならない。
- これでは出来ない、ではなくこうしたら出来る、の考え方が必要。特色あるものを打ち出すのはリスクも伴うが、思いきってやらないと、と思う。

5 閉 会

- ・以上をもちまして、令和6年度結城市総合教育会議を閉会いたします。本日は大変ありがとうございました。

午後5時10分 終了